



Ensemble Dimanche

アンサンブル ディマンシュ

第 79 回演奏会

2016 年 9 月 17 日(土)

府中の森芸術劇場 ウィーンホール

【プログラム】

モーツァルト: 交響曲第 31 番「パリ」 K.297

第 1 楽章: Allegro assai

第 2 楽章: Andante

第 3 楽章: Allegro

ワーグナー: ジークフリート牧歌

<休憩>

メンデルスゾーン: 交響曲第 4 番「イタリア」 Op.90 <1834 年改訂版>

第 1 楽章: Allegro vivace

第 2 楽章: Andante con moto

第 3 楽章: Con moto grazioso

第 4 楽章: Allegro di molto

ご挨拶

アンサンブル ディマンシュは、1976 年秋に学生オーケストラの現役メンバーを中心にバッハを演奏する合奏団として結成され、翌年 1 月に第 1 回演奏会を開催しました。1978 年 1 月の第 2 回演奏会では小編成の管弦楽団として再編成され、それ以降、年 2 回の定期演奏会を重ねて 40 年。「アマチュアオーケストラの老舗」として、独自のスタイルを確立してきました。

2016 年 3 月、老舗にも変革の時がやってきました。第 1 回から第 78 回まで、長きにわたり指揮を務めてきた当団の創立者であり責任者であった山本誠一郎氏が勇退することになり、演奏面、運営面から団の存続についての検討を余儀なくされたのです。幸い、メンバーは 1 人も欠けることなく、全員で続けていこうという結論に至り、組織が再編され、新たな指揮者を迎えて「新生ディマンシュ」として船出しました。

本日は、「新生ディマンシュ」の第 1 回演奏会です。「ディマンシュの良さを残しつつ、より高度な演奏を目指して」はまだ発展途上の感もありますが、皆様と共に楽しめることを願い、心を込めて演奏いたします。

【指揮者プロフィール】



平川 範幸

1987 年福岡県出身。福岡教育大学音楽科卒業。

上野学園大学研究生(指揮専門)にて下野竜也、大河内雅彦の各氏に師事。

桐朋学園大学オープンカレッジにて、黒岩英臣氏に師事。また、パーヴォ・ヤルヴィ、湯浅勇治、沼尻竜典の各氏の指揮マスタークラスを受講。

これまでに、音楽理論を中原達彦氏に、ピアノを田中美江氏に師事。

2012 年度、新日鉄住金文化財団指揮研究員として、紀尾井シンフォニエッタ東京の下で活動する。2013 年度より 2 年間、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団指揮研究員として、宮本文昭、飯守泰次郎の各氏の下で研鑽を積む。

これまでに、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢を指揮する。また、各地のジュニアオーケストラや学生オ

ーケストラ、吹奏楽団、合唱団を指揮する。

2015 年度より、上野学園大学非常勤助教。2016 年度より、仙台ジュニアオーケストラ音楽監督に就任。

【曲目解説】

モーツァルト:交響曲第 31 番「パリ」

オーケストラの演奏会の曲目を決めるのに、何が重要だと思われますか？その曲を演奏したい、という想いは、もちろん大切です。しかし、実現するためには、難易度もさることながら「編成」がとても重要なのです。編成とは、第 1 ヴァイオリンが何人か(それにより弦楽器の人数が決まります)、木管、金管・打楽器は何が何人必要かということ。演奏会を開くにはそれなりに費用が必要で、人数が足りない場合はお手伝いをお願いすることになります。今回、新生ディマンシュとして船出するに当たり、指揮にプロをお迎えすることになりました。今までは指揮者もお金を払って振っていたのですが、その分お金がかかります(下世話な話ですみません;;)。なので、今回は、とにかくお金がかからない編成の曲にしよう！ということになりました。現在メンバーがいるのは、弦+木管・ホルン・トランペット(2 管)+ティンパニです(一部除く)。知恵を出し合って、何とかこの曲目にたどり着きました。

さて、パリのことを書かなければならないのですが、参考文献を調べていて、面白いものを見つけました。ジャン・ジャック・ルソー音楽辞典(1768)によれば、「1754 年当時の最もよい編成は、ドレスデンのザクセン選帝付オーケストラであり、第 1 ヴァイオリン 8、第 2 ヴァイオリン 7、ヴィオラ 4、チェロ 3、コントラバス 3、フルート 2、オーボエ 5、ファゴット 5、ホルン 2、ハーブシコード 2」だそうです。え、この編成で何を演奏！??。そして、ご存知の方も多いと思いますが、「管楽器のクラリネットは、1770 年代のパリやマンハイムでは既に編成に加えられていましたが、他の地域ではまだ一般的ではなくモーツァルトのザルツブルク時代は、定員化されていなかった」とのことです。この交響曲「パリ」はその転換期にあたり、モーツァルトの交響曲ではそれまで使われていなかったクラリネットが入っています。

さて第 1 楽章は、二長調の和音が3つ、そして 1 オクターブの音階と、非常に単純な音型ですが、華やかに始まります。2 楽章はアンダンテ、ト長調。指揮者は寝させないように、とおっしゃっていますが、第 2 ヴァイオリンとしては、3 楽章アレグロのフォルテまで、気持ちよく眠っていただいても、という気も。。それでは、どうぞお楽しみください。

(2nd.Vn MM)

ワーグナー：ジークフリート牧歌

ジークフリート牧歌は、1870 年 12 月 25 日の朝、スイス中部のルツェルン湖畔にある家の階段に楽師が並び、その日に誕生日を迎えたたったひとりの女性のために演奏されました。なんともロマンチックな話です。この曲の贈り主はヴィルヘルム・リヒャルト・ワーグナー、贈られたのはその妻コージマ・フランチェスカ・ガエターナ・ワーグナー。この出来事について、コージマはその日の日記に「目覚めぎわにわたしの耳は一つの音を聞きつけた。音の流れはしだいに量をまして豊かになったが、夢を見ているわけではないことはすぐに分かった。じっさいに音楽が鳴り響いていた。それもなんという音楽だろう！それが鳴りやむと 5 人の子をつれたリヒャルトがわたしの部屋に現われ、『お誕生祝いの交響楽』のスコアを手渡してくれた。わたしは涙にくれたが、家中の者も泣いていた。リヒャルトはオーケストラのメンバーを(わたしの部屋に通ずる)階段に配置して演奏させたのだが、こうしてわたしたちのトリブシェンは永遠に清められたのである。この曲は『トリブシェン牧歌』と名づけられた」(1870 年 12 月 25 日)と書き残しています。

コージマの父親はピアニストで作曲家のフランツ・リスト、母親は後に作家活動を行うマリー・ダグー伯爵夫人ですが、コージマが誕生したところ両親は 10 年以上にわたり愛人関係にあり、父親に認知されたのは 7 歳の時でした。幼少期に乳母やリストの母などの元で教育を受け、後にリストの元を離れてパリに行きますが、ふたりのフランス人の家庭教師がついているだけで、孤児同然であったといえます。17 歳のときにベルリンに移り住み、1857 年、父リストのピアノの弟子で後に指揮者となったハンス・フォン・ビューローと結婚。ハンスはワーグナーの楽劇「トリスタンとイゾルデ」や「ニュルンベルクのマイスタージנגー」を初演した人で、コージマとハンスは、当時ワーグナーがいたチューリッヒを新婚旅行先として選ぶほどのワーグナー熱を分かち合っていました。

ワーグナーとコージマは 1862 年にパリのサロンで出会いますが、ワーグナーは指揮者をしていて劇場の女優ミンナ・プラーナーと結婚しており、24 歳年下のコージマとの不倫は当時世間を騒がせた一大スキャンダルでした。しかし、コージマの夫ハンスは熱狂的にワーグナーに傾倒しており、この不倫を黙認していたようです。ふたりの間には、1865 年に長女イゾルデ、1867 年に次女エーファ、1869 年に長男ジークフリートが誕生します。この間 1866 年にはワーグナーの妻ミンナの死亡の報が届き、コージマも 1870 年にハンスと正式に離婚したことで、ふたりは 1870 年 8 月 25 日、ようやく正式に結婚することができました。このころの日記には、ワーグナーは「誇り顔に彼女を連れ立って歩く」のが楽しみになり(1870 年 10 月 21 日)、コージマも「彼の夫人と呼ばれるのは最高の誇りだった」(1870 年 9 月 22 日)と記されています。また、ワーグナーはコージマに「わたしたちはなんといっても幸せな夫婦だよ。外で嵐が吹き荒れていても、わたしたちの嵐は過ぎ去ったのだからね」(1871 年 10 月 2 日)と言っています。

その後も、ワーグナーにとってコージマは「彼がこの世で唯一尊敬しているひと」(1871 年 1 月 19 日)であり、コージマにとってワーグナーは「女の愛情の価する唯一の男性」(1874 年 1 月 14 日)でした。また、「来客が帰ったあと、リヒャルトと私は二人きりになった。ふたたび水入らずになって互いの抱擁にもふだんより熱がこもっていたと思うが、その折りリヒャルトは、きみはきれいだ、と言ってくれた。それどころかこれ以上にきれいなものは考えられないくらいだ、とも言ってくれたが、わたしは幸せのあまり言葉もなかった」(1871 年 8 月 1 日)と日記に残されているように、ふたりは至上のカップルでした。

ジークフリート牧歌は、ワーグナーがコージマに贈った「純愛の贈り物」です。本日の演奏をお聴きになるみなさんは、どのような「愛」を感じ取られるでしょうか。「この世で唯一尊敬しているひと」、「女の愛情の価する唯一の男性」を想い浮かべながらお聴きいただければ幸いです。(OK)

(コージマの日記は、三光長治著「新編ワーグナー」(平凡社ライブラリー)による)

メンデルスゾーン：交響曲第 4 番イ長調「イタリア」Op.90 <1834 年改訂版>

メンデルスゾーンは、1830 年 10 月から翌年 4 月までの間、イタリアに旅行しています。この交響曲は、その旅行中に書き始められたことから、「イタリア」という愛称で親しまれています。第 4 楽章にはイタリア舞曲「サルタレロ」が用いられています。完成したのは 1833 年で、同年に初演されています。交響曲第 4 番となっていますが、これは楽譜の出版順によるもので、作曲順に並べると、第 1 番、第 5 番「宗教改革」、第 4 番「イタリア」、第 2 番「讃歌」、第 3 番「スコットランド」となります。

この曲の初演後、彼は改訂の必要があるとしてすぐには出版しませんでした。実際この曲が出版されたのは彼の死後の 1851 年で、これは初稿を基にしたものであると考えられています。彼は初演の翌年の 1834 年に第 2～4 楽

章の改訂作業に取りかかり、完成させますが、この改訂稿は、何故か第 1 楽章が改訂されないまま放置され、生前はもとより近年まで演奏されることはありませんでした。

今回演奏するこの交響曲の第 2～4 楽章は、通常演奏されているいわゆる初稿版(1833 年版)ではなく、近年改訂稿を基に出版された改訂版(1834 年版)を使用しています。この改訂版では、オーケストレーションから旋律に至るまで大幅な変更がなされており、初稿版とはかなりの違いがあります。

第1楽章: Allegro vivace イ長調 6/8 拍子

今回の演奏では、この楽章のみ初稿版(1833 年版)を使用しています。木管楽器とホルンによる奏者泣かせの速い三連符の繰り返しにより始めると、すぐにヴァイオリンがイタリアを思わせる明るい旋律を歌います。

第2楽章: Andante con moto 二短調 4/4 拍子

短い序奏に続き、ヴィオラとオーボエ、ファゴットが短調の旋律を歌います。ヴィオラとオーボエが同音で旋律を奏するのは、メンデルスゾーンの管弦楽法の特徴の一つであり、第 3 交響曲などにも見られます。序奏の装飾音符が省略されている、主旋律の動きが平坦になっているなど、聴き慣れている初稿版と比べるとかなり違和感があります。全体で初稿版より 9 小節増えています。

第3楽章: Menuetto ; Con moto grazioso イ長調 3/4 拍子

古典的なメヌエットとトリオです。初稿版では"Con moto moderato"ですが、改訂版では速度記号の"moderato(中庸な速度で)"が発想記号の"grazioso(優美に)"に替わっています。これを象徴するように、トリオで現れるヴァイオリンのオブリガートがスキップのような音階から滑らかな(優美な?)音階になっています。見た目は全体で 6 小節しか増えていませんが、最初のメヌエットの後半に繰り返し記号が加えられており、実質 60 小節余増えています。また、改訂版では、オーボエが楽章を通じて Tacet(休み)となっているほか、次の楽章との間は切れ目なく演奏するよう指示されています。

第4楽章: Saltarello ; Allegro di molto イ短調 4/4 拍子

「タッタタタタ」というリズムの続くイタリアの舞曲「サルタレロロ」です。初稿版では通常最も速い速度記号である"Presto"になっていますが、改訂版では何故かワンランクダウンしています。また、初稿版より 41 小節も増えており、展開部と再現部がより充実しています。(鷹)



【第 79 回メンバー】

第 1 ヴァイオリン	佐藤克哉、三瓶政一、関根佳子、☆時山響子、西川富之、保坂直紀		
第 2 ヴァイオリン	荒川奈月、石嶺寿子、岡部拓郎、西村 実、三井田ひろ子、♪森 未知		
ヴィオラ	柴野かおり、下山純也、♪関口孝司郎、千秋和久、山口 彰		
チェロ	♪緒方 淳、島田亜貴子、寺山知宏、三次摂子、山内美佐子		
コントラバス	江川博之、♪須賀敬亮		
フルート	徳植俊之、上野京子	オーボエ	市川亜理、山口高司
クラリネット	相川大輔、浅井昭成	ファゴット	越島康太郎、星野未央
ホルン	小磯 治、森合利之	トランペット	鴨狩公一、多賀亮介
ティンパニ	星野武徳	練習指揮	木村 誠

☆:コンサートマスター、♪:弦楽トップ



☆次回の演奏会ご案内☆

日時: 2017 年 2 月 18 日(土) 14:30 開演
場所: 府中の森芸術劇場 ウィーンホール
曲目: シューマン 交響曲第 4 番(初稿版)
フォーレ ペレアスとメリザンド 作品 80
ベートーヴェン レオノーレ序曲第 3 番
詳細は HP <http://www.e-dimanche.jp/> をご覧ください。
※招待券ご希望の方はアンケートにご記入いただくか HP よりお申込みください。